

日本珪素医療研究会

水溶性珪素の臨床試験を発表 第7回会合を開催

珪素の臨床試験について発表した。なお、同会の研究材料である「水溶性珪素um.o(ウモ)」は、原料メーカーのAPAコーポレーション(エーピーイー、本社愛知県岡田憲己社長、☎0563-6510033)が提供している。

APAコーポ岡田憲己社長があいさつ

医師や医学博士、学識経験者が、珪素を活用した医療などについて情報交換を行うことを目的に設立された日本珪素医療研究会(事務局東京都、☎03-351017050)は5月14日、第7回会合を開催した。参加した医師や研究者からは、水溶性珪素を用いた臨床例に関する発表や、珪素関連の最新データの発表などが行われた。愛知医科大学の福沢嘉孝教授ら6人の会員が、水溶



APAコーポレーション 岡田憲己社長



日本文化振興会 金子昭伯氏



愛知医科大学 福沢嘉孝教授

発起人代表として(一社)日本文化振興会(事務局東京都)の副総裁を務める金子昭伯氏も登壇。近年、珪素の市場は急速に拡大しているが、正確ではない表示も見受けられるようになってきている。先生方の研究を積極的に支援し、研究において活躍できる場を作りたいなど話した。

同会合では冒頭、同研究会の事務局長を務めるAPAコーポレーションの岡田憲己社長があいさつし、「日本珪素医療研究会は当初、珪素にまつわる医療関係者の情報交換・交流の場として、十数人でスタートしたが、現在は44人の医療関係者が登録するに至っている」などと現状を報告。「珪素の活用の際はまずまず広がっている」などと話した。



研究会の様子

水溶性珪素と生活習慣テーマに発表

発表ではまず、愛知医科大学の先制・統合医療包括センターの福沢氏が「水溶性珪素と生活習慣病：原着・総説を含めての概説」をテーマに発表を行った。

水溶性珪素「um.o(ウモ)」を使ったヒト臨床試験について報告

研究の経緯から、試験設計、代表的な症例、結果までを詳しく報告した。

同試験では、脂肪肝の患者40人を対象にランダム比較試験を実施。脱落者を除く計25人で評価を行った。水溶性珪素摂取群には、1日約9ミリシロウ毛濃縮溶液(水溶性珪素として1日約80ミグ)を、6カ月間摂取させた。

その結果、水溶性珪素摂取群の「体重」に有意な減少が確認。「BMI」の有意な改善も確認された。論文ではこれらの結果について、「過去に報告された動物試験の結果と合致しており、水溶性珪素が通常の食事・運動療法における減量効果において、上乘せ効果をもたらす可能性を示唆している」と考察している。

「有害事象が皆無であった点でも有用と考えられた」ともしている。血検を分解する線溶系の活性化の指標となる「PAI-1」についても有意な改善が確認され、血栓症のリスク軽減効果も示唆されたという。

水溶性珪素を摂取させなかった群では3カ月経過後に、やせホルモンなどと言われることもある「アディポネクチン」が有意に減少したが、水溶性珪素摂取群では、有意な変化がみられなかったとしている。

肝機能障害の指標である「AST」にも改善傾向がみられた。臨床試験の結果は学術誌「未病改善医薬」に掲載された。

MDαの臨床応用事例を報告

続いて、長野県中野市でたかはしクリニックを開業している高橋嗣明(つぐはる)院長が「水溶性珪素水にフルボ酸と海藻由来のコロイドヨウ素成分を加えた製品での臨床事例」をテーマに発表した。発表の中で高橋氏は、コロナ禍の中、ワクチン後遺症に悩む患者が増えていると説明。フルボ酸、コロイドヨウ素、水溶性珪素um.o、微量ミネラルなどからなる「MDα(エムディーアルファ)」の臨床応用事例について報告した。さまざまな症例で改善がみられたことを報告した。

水の研究者で、新原料「生体マトリックスum.o」の研究開発に携わった中島敏樹理学博士も「生体マトリックスウモが拓く生命特異機序の考察」をテーマに講演。「最先端生命科学の世界的な視点」から、「生体マトリックスの水」の有用性を考察した。

予備研究として、まずは横田氏自らが、水溶性珪素を摂取したり、摂取を止めたりしながら、定期的に爪を採取。蛍光X線分析法による分析を行ったという。

その結果、アルミニウムやカリウムなどに影響を与える可能性が見えたことを報告した。横田氏は「今回は被験者1人であるため、研究としては成立しない。30人規模で同様の試験を実施したい」と話し、来場した医療関係者に、共同研究への協力を呼び掛けた。

「免疫異常とケイ素」テーマで症例報告 高木動物病院の高木謙院長による講演では、「免疫異常とケイ素」というテーマで、水溶性珪素を利用した症例を報告した。「当院では、これまで、高濃度ビタミンC療法や免疫療法に取り組んできたが、いずれも副反応に悩まされてき

た。水溶性珪素との出会いによって、状況が一変した。um.oには可能性を感じている。今後も研究を進めていきたい」などと話した。

内藤医院の内藤眞禮生院長は、会の最後に、「新型コロナウイルス感染症及び後遺症・ワクチン後遺症に対する当院の取り組みと成果」予防から治療まで」と題したビデオ講演を行った。

「重曹の摂取による血液のアルカリ化」などと並行して、「水溶性珪素um.oを含む『MDα』の摂取」を行うのが良いという考え方を示した。実際に、22年7月から23年4月までで142人の患者に対して、トータル648本の「MDα」を使用したことを報告。改善例を多数報告した。同会では、昼食を挟んで、講演が長時間にわたって行われた。昼食時の乾杯の発声は(一社)日本珪素医学学会の副会長を務める、ディマート(本社兵庫県)の弓場英治社長が行った。昼食時には、富山県立大学工学部工学研究科の立田真文准教授の講演内容がビデオで流された。